早慶文系数学 最短突破

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

早慶文系レベル　50 年資料補強版

文系数学最短突破

全 69 講　例題 69 題・参考問題 69 題　入門診断 8 問　学部別の到達度テスト 8 回

初めて見る問題の何に気づけば解き始められるか。例えば、立体を切る問題なら、切り口の面積を出すだけでは足りない。どちらに切り進み、切り口に垂直な厚さをどう表すかを決めて、初めて体積の積分が書ける。本書では、こうした判断を例題で学び、別の設定の参考問題で自分で試す。

使う順	すること	頁
志望学部を選ぶ	受験する方式の範囲と時間を確認し、得点源にしたい分野を選ぶ。	2
索引で引く	第 1〜22 講の定石、第 23〜69 講の補強・融合問題を引く。	6〜9
入門診断を解く	8 問を別紙に解く。解答と理由を照らし、指定された講に進む。	10
講ごとに解く	上の例題を別紙で解き、左右の解説で根拠を確認する。	12〜80
参考問題で試す	解説を隠して解く。解答ページは各問の下に記載。	89〜102
時間を測る	学部別の問題を別紙に解く。解答・配点表で部分点まで記録。	81〜88
過去問で確かめる	本書で見たことのない年度を使い、志望学部で再現できるか測る。	118

KEY　最短で使うための基準

入門診断で正解して理由も説明できた分野は、対応する講の参考問題から始める。手が止まった分野は例題へ戻る。「解説を読んで分かった」と「自分で最初の式を選び、時間内に解き切った」は記録を分ける。

本書の対象　高校数学 I・II・A・B・C（ベクトル）の教科書を一度学んだ、早稲田商・社会科学部、慶應経済 A・商 A 志望者を中心とする。SFC など方式が異なる場合の使い分けは次ページに記した。

取り組む学部・方式　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　**試験時間**　＿＿＿＿分

試し読みサンプル

学部別に、何をどこまで解くか

以下は 2027 年度一般選抜の大学要項による。テスト番号は本書独自のもの。過去問の傾向だけで選択科目を外さず、志望方式の範囲を先に読む。

学部・方式	個別数学と本書での重点	演習
早稲田 商・数学型	90 分・60 点。文系数学は I・II・A・B（数列、統計的な推測）・C（ベクトル）。立体の断面、数列と関数、答案で根拠を残す練習を優先する。	テスト 1・5
早稲田 社会科学・数学型	60 分・60 点。文系数学の範囲は商と共通。整数・数え上げ・微積の問題で、短時間に条件を整理する。大学独自の英語と共通テストの配点もある。	テスト 4・8
慶應 経済・A 方式	100 分・200 点。I・II・A、B は数列、C はベクトル。数学 II の微積では一般の多項式も扱う。三次・四次関数、面積と立体の複合問題まで進む。	テスト 3・7
慶應 商・A 方式	70 分・100 点。I・II、A は図形の性質と場合の数・確率、B は数列、C はベクトル。数学 I のデータの分析を含む。分散、確率、空間、微積を横断する。	テスト 2・6

分散と「統計的な推測」を分ける

与えられたデータの分散や相関を計算する課題は数学 I で、第 36・49 講に対応する。標本から母集団を推定する課題は数学 B で、第 37・38・53 講に対応する。早稲田商・社会科学の志望者は後者まで進む。慶應経済 A・商 A は前者を優先する。

慶應 SFC を受ける場合

総合政策の数学は I・II・A・B（数列・統計的な推測）。第 37・38・45・47・50・53 講で、長い条件の整理と統計を補う。環境情報は「数学」単独選択に数学 III と、数学 C の平面上の曲線・複素数平面も含む。これらは別途履修が要る。併用選択の範囲は方式ごとに要項で確認する。

早稲田の他学部を受ける場合

政治経済の一般選抜は共通テスト数学 I・A が必須、II・B・C は選択科目の一つで、大学独自試験は日英の総合問題。法の数学選択は共通テストを利用する。共通テストの資料量・選択形式への対応は当該年度の問題で確認する。

教育・人間科学で大学が「数学（理系）」とする方式は、要項で範囲を読む。人間科学の数学選抜方式は、設問の選択により文系範囲だけでも解答可能と明記されている。

数学の配点と教材の配点

本書の 8 テストは比較しやすいよう各 100 点に換算した独自問題である。特に慶應経済 A では、2026 年度数学の 80 分から 2027 年度は 100 分へ変わる。過去問の採点は、その年度の時間を設定して行う。

試し読みサンプル

過去問で必要になった操作を、どの講で練習するか

下表は実際の出題から選んだ例である。公式問題は題材・操作の照合に用い、教材中の例題・参考問題・テストはオリジナル問題とした。どの学部・年度でも同じ出題になるという意味ではない。

実際の出題	解くのに必要な操作	対応する講
早稲田商 2024・II	正多角形の頂点を選ぶ。四角形の面積を幾何で分類し、確率の分子に戻す。	6・27・33・51
早稲田商 2025・III	内分点の範囲を出し、三角形の回転でできる立体の体積を最大化する。	21・32・34・52
早稲田商 2026・II・III	対数と数列を結ぶ。交わった領域を高さごとに切り、体積を変数の式にして最大化する。	11・26・32・40・52
早稲田社学 2025・II・III	階差数列、三角関数の最大・最小。	11・16・40・42
早稲田社学 2026・I〜III	三次関数と直線で囲まれる面積、重みの異なるものの数え上げ、整数の組と整除の証明。	3・6・20・30・39・44
慶應経済 2025・IV〜VI	多倍角の式の係数を扱う。三次関数と接線を式で表し、囲まれる三角形の面積を扱う。	16・19・20・42
慶應経済 2026・V・VI	空間における直線と平面の関係を求めて体積へ進む。条件から三次関数を復元して接線・面積を扱う。	19〜22・31・32
慶應商 2025・I	値を置換した後の平均・分散を求める。球の平面による切断を扱う。	22・36・48
慶應商 2026・I〜IV	分散・対数・数列などの短問の後、空間ベクトル、微積、条件付き確率・期待値へ進む。	9・26・30・34〜36

2 つの講をつないで解けるか

「回転してできる立体の体積を最大にせよ」では、最初に第 52 講の断面積を作る。その後、第 29 講の増減の考え方を使って、変数の範囲の両端と臨界点を比べる。一方、断面が軸に斜めなら切断方向と厚さの対応も必要である。到達度テスト 1 の第 3 問で試せる。

照合に用いた大学の公開資料

電子版では下の資料名から原本を開ける。教材内の配点と学習基準は編集上の設定である。

早稲田・2027 年度要項　慶應・2027 年度要項

早稲田・過去の入試問題（2024〜2026 年度）

慶應・2026 年度試験問題　慶應・2026 年度出題意図と解答例

慶應・2025 年度経済数学　慶應・2025 年度商数学

試し読みサンプル

1977〜2026年度を、どこまで確認できたか

1977〜2026 年度は 50 年度に当たる。下表は、その期間のうち、学部・年度を確かめて問題本文または大学の出題意図を読めた例である。空白の年度や同じ年度の別学部について、全問題を確認したという意味ではない。過去の資料は解法の幅を見つけるために用い、問題文は転載していない。

年度	学部	確認した操作の例	資料
1999	早稲田商	係数の剰余類、係数比較から整数の積	問題画像と解説
2001	慶應経済	高次式の置換、接線の制約、囲む面積	問題冊子
2002	早稲田商	同一文字の非隣接配置、放物線の共通接線	問題画像と解説
2004	早稲田商	循環小数、円順列、累乗の桁	問題画像と解説
2005	早稲田社学	領域の最大・最小、連立漸化式と剰余	保存された問題 PDF
2007	早稲田商	床関数の入れ子、球と漸化式	問題画像と解説
2010	早稲田商	整数の積の最大、共通接線、立体の体積	問題画像と解説
2012	早稲田商	移動図形の重なり、距離の二乗和	問題画像と解説
2019	早稲田商・社学	共役数列と整数部分、円族の通過領域	保存された問題 PDF
2020・2022	早稲田社学	整式と絶対値、確率、図形、整数	大学の出題意図
2023	早稲田商・社学	積分条件と整数格子、接線と整数部分	大学の問題 PDF
2024〜2026	早稲田商・社学	図形と数え上げ、数列、面積と立体	大学の公開問題
2025〜2026	慶應経済・商	短答・記述、確率、空間、微積、分散	大学の問題・意図

本文を読めなかった期間

1977〜1998 年度の主対象 4 学部の本文は、この版の編集時点で確認できていない。1999〜2023 年度も表に挙げた学部・年度・設問以外は未確認である。1977 年版などの所蔵目録は確認したが、冊子の刊行年・受験年版を実際の出題年度と読み替えなかった。

古い 50 年本には早稲田の理工・政治経済、慶應の理工・医学・経済を扱うものがある。対象と異なる学部の掲載や書誌だけから、この表の商・社会科学部の出題を推定していない。

現在の試験へ移す基準

旧課程の問題には、現行の文系方式の範囲を超える題材が含まれる。たとえば単位根で係数を抽出する旧問を参照しても、第 65 講では現行の二項定理と漸化式で解ける設定に置き換えた。

早稲田社会科学部は 2025 年度から方式が変更され、統計的な推測も新課程の範囲に入った。慶應経済の古い A 方式の短答・一次採点と、2027 年度の時間・配点は各年度で区別する。過去の出題回数を現在の得点可能性に換算せず、2027 年度の要項で学部・方式を選ぶ。

問い読みサンプル

資料と追加講の対応

古い年度の「問題画像と解説」は大学の公開原本ではない。保存された問題 PDF も掲載元と年度・学部を照合した資料である。大学公式の問題・出題意図と下の一覧で区別した。

照合した操作	本書の追加講	解く際の焦点
経路の数・重複のある配置	54・58 講	何を同一視するか、反射した経路の終点
床関数・整数条件	55・56・64 講	整数部分の境界、周期、数え始める位置
三角方程式・平面図形の存在	57・59・63 講	範囲の端点、係数の非負条件、接点の逆確認
共通接線・動く図形の面積	60・62 講	接点を別々に置く、重なりの形の変化
漸化式・二項係数の剰余	61・65 講	不変量と余りによる分類
共役数と整数部分・解の重複	66・67 講	共役な数の高冪の大きさ、共通根の数え直し
関数等式・動く円の領域	68・69 講	係数比較、固定した点からの逆構成

閲覧した問題と大学の資料

1999 早稲田商　2001 慶應経済　2002 早稲田商　2004 早稲田商
2005 早稲田社学　2007 早稲田商　2010 早稲田商　2012 早稲田商
2019 早稲田商　2019 早稲田社学
2020 早稲田社学・出題意図　2022 早稲田社学・出題意図
2023 早稲田商・問題　2023 早稲田社学・問題
2024〜26 早稲田の公開問題
2026 慶應の公開問題　2027 慶應経済の変更通知
2025 早稲田社学の方式変更　早稲田の新課程・出題範囲

上の問題資料のうち、早稲田社学の旧方式は現行方式と時間・科目が異なる。各講・演習はすべて新しく書いた問題であり、出典表示は教材自身の作問を表す。

試し読みサンプル